

横井時冬著

日本工業史

原書房

よこいときふゆ

横井時冬 (1859—1906) 文学博士

名古屋藩士の三男、安政6年12月、同城内三の丸小中路に生る。藩校明倫堂、養成学校、早稲田専門学校等に学び、その間佐藤楚材、小中村清矩、栗田寛らに就いて和漢の学を修め、早稲田専門学校を卒業後、高等商業学校、高等工業学校等に教鞭を執る。明治35年文学博士の学位を受く。同39年4月18日病没。著書に「日本不動産史」「日本商業史」「日本工業史」「日本殖産史」「消息文変遷」「日本絵画史」等がある。

日 本 工 業 史

1982年4月20日 第1刷 定価 6,500円

(復刻原本・昭和2年刊)

著 者 横 井 時 冬

発行者 成 瀬 恭

発行所 原 書 房

〒160 東京都新宿区新宿1-25-13

電話・代表03(354)0685 振替・東京5-151594

平河工業／東京美術紙工

ISBN4-562-01235-8

緒言

一 この書かきつる趣旨は明治廿九年高等商業學校において工業史の一科を加へられしとき學生の參考書にとてかくはものしつるがゆゑに専ら近世工業の發達を示すことをつとめたりされば上古中古の部比較上やゝ簡に過ぎたるが如き感なきにあらざるに似たれども讀者においてよく／＼意をとめて見らるるときは自ら工業上に關する要領は其中に網羅すること明らかならむとおもふ

一 本書中ものによりては其發達せし時代において其物の起原をも併せてかきおきしが又各時代にわたりて特色あるものは其時代ごとに章を設けてかきおきつ前者にていへば刀劍を鎌倉時代に掲げ七寶を維新後にかゝげたるが如き類後者にていへば織物、漆器、陶磁器の類を種々の時代に掲げたるが如き類なり

一 開港以來公私において雇聘せし歐米人の姓名に至りては正確に取調たるものなきがゆゑに或は姓のみを掲げ或は名のみを掲げなどして一樣ならず剩へ誤讀のまゝに傳へられたるものもあるべければ大體は其國人に就いて質したるものを掲げしかどなほ明分ならざるものはしばらく其まゝにして載せおきつ他日を期して改むべし

一 また開港以來本邦に傳へられし諸機械の名稱中に往々讀方の正しからざるものあれども既に本邦において一種の名稱となりたるものはことさらに改めずそのまゝに用ひおきたり

一 附録對照圖は普通の圖畫にうつしとりて其大體をしり得べきものゝみをえらみてかゝげおきぬ其後小杉楳邨君に謀り大日本美術圖譜と題する本邦歴代の美術工藝品を圖畫にうつしたるものを出版せりさればこの對照圖にもれたる分は大日本美術圖譜に就いてみるべし

一 この書の稿を脱したるは明治三十年十二月の末つかたなれば統計はすべて前年の分をとれり

明治三十年十二月廿八日

著者しるす

この書を出版せし以來殆と滿三年の星霜を経しことゝて書中往々訂正増補の必要いできぬれば弘文館に謀りて再版に附することゝなしぬ

明治三十四年一月十五日

著者又しるす

一 本書の校正は早大文科出身花村鋼造氏を煩はしぬ。一言記して同氏に勞を謝す

昭和二年四月二十五日

男 横井春野しるす

日本工業史

目次

第一編 上古時代の工業

第一章 上古世襲の工業……………一

第二章 朝鮮支那交通以後の工業……………三

第二編 寧樂朝時代の工業

第三章 佛法の隆盛と工業の進歩……………六

第一款 東大寺の正倉院……………七

第二款 彫刻術の進歩……………九

第三款 蒔繪并に七寶の創製……………一〇

第四款 玻璃器の進歩……………一一

第五款	染物の進歩	二二
第六款	刺繍の進歩	二三
第七款	裝飾術の進歩	二四
第四章	建築術の進歩	二六

第三編 藤原氏時代の工業

第五章	貴族の豪奢と工業の進歩	二八
第一款	葺手、歌繪の流行	二〇
第二款	蒔繪并に螺鈿の流行	二二
第三款	蠶絲業の進歩	二三
第四款	織物并の染物の進歩	二四
第五款	製紙の進歩	二五
第六款	貴族の崇佛と彫刻術の進歩	二七
第七款	寢殿式の建築	二六

第四編 武家時代の工業

第六章 鎌倉時代の工業……………	三〇
第一款 蒔繪并に鎌倉彫の創製……………	三一
第二款 宋窯法の傳來……………	三一
第三款 武器用の工藝品……………	三三
第七章 東山時代の工業……………	三五
第一款 蒔繪并に金屬彫刻の進歩……………	三七
第二款 東山時代舶來陶磁器……………	三八
第三款 工業家の保護……………	三九
第八章 堺の工業……………	四一
第九章 歐洲人の交通以後の工業……………	四二
第十章 桃山時代の工業……………	四四
第一款 工藝家の名譽號……………	四五

第二款	天正蒔繪……………	四六
第三款	樂燒の創製……………	四七
第四款	假面彫刻の進歩……………	四九
第五款	刃劍并に裝劍具の彫刻……………	五〇
第六款	挑山式の建築……………	五一
第十一章	點茶の流行と工藝品の進歩……………	五二
第一款	鑄子鑄造の進歩……………	五四
第二款	茶器用陶器の進歩……………	五五
第三款	茶器用漆器の進歩……………	五六
第十二章	征韓役後陶業の勃興……………	五七
第十三章	造船術の進歩……………	五八
第十四章	建築術の變遷……………	六〇
第五編	德川氏時代の工業……………	

第十五章	武家の隆盛と工業の進歩……………	三
第十六章	京都江戸の美術工藝……………	四
第十七章	鎖港并に渡海禁止の工業に及ぼし、影響……………	六
第十八章	各藩工業の奨励保護……………	六
第十九章	陶磁器の進歩……………	七
第一款	白磁礪の發見并に有田、瀬戸の磁器……………	七
第二款	京師の陶磁器……………	八
第三款	九谷の磁器……………	八
第四款	遠州の七窯并に茶器用の陶磁器……………	八
第五款	諸國の藩窯……………	七
第二十章	漆器蒔繪の進歩……………	九
第一款	蒔繪漆畫……………	九
第二款	京師及諸國の漆畫……………	九
第三款	特種の漆器……………	九

第廿一章 織物の進歩……………	101
第一款 織物原料の輸入……………	101
第二款 京都西陣の織物……………	105
第三款 關東奥羽織物の進歩……………	107
第四款 縮緬織の進歩……………	110
第五款 特種の織物……………	111
第六款 植物織緯の織物……………	113
第廿二章 京都の染物并に染物の流行……………	116
第廿三章 武器用工藝品の進歩……………	118
第廿四章 銅器の進歩……………	120
第廿五章 假面根付類の彫刻進歩……………	123
第廿六章 製紙の發達……………	125
第廿七章 建築物……………	127
第廿八章 木版彫刻の進歩……………	129

第廿九章	洋式機械工業の創始	一三二
------	-----------	-----

第六編 維新後の工業

第三十章	工業の變遷	一三五
第三十一章	明治政府工業に關する獎勵保護	一三七
第三十二章	澳國博覽會參同の影響	一四〇
第三十三章	洋式模範工場の設立	一四五
第三十四章	工業の組合	一四七
第三十五章	機械製絲業 附燃糸	一五〇
第三十六章	機械紡績業	一五六
第三十七章	織物の進歩	一六五
第一款	ジャカード、バツタンの輸入	一六七
第二款	京都西陣の織物	一七一
第三款	兩毛織物の進歩	一七五

第四款	關東織物の進歩	一八〇
第五款	輸出織物	一八三
第六款	特種の織物	一八六
第七款	縞木綿の進歩	一八九
第八款	綿フランクネルの創製	一九一
第三十八章	綴錦并に段通の進歩	一九三
第三十九章	染色の進歩	一九六
第四十章	陶磁器の進歩	二〇二
第一款	陶窯の變遷并に顏料の輸入	二〇四
第二款	石膏型の創始并に銅版押繪の進歩	二〇八
第三款	東京及京都の陶磁器	二一一
第四款	諸國の磁器	二一五
第五款	諸國の陶器	二二〇
第六款	維新後著く發達したる磁器	二二三

第四十一章	煉瓦并に土管の進歩	二三〇
第四十二章	攝綿篤	二三四
第四十三章	七寶の進歩	二三五
第四十四章	玻璃の進歩	二四〇
第四十五章	漆器及蒔繪	二四二
第一款	色漆の發明	二四五
第二款	東京及金澤の蒔繪	二四七
第三款	輸出漆器	二四九
第四款	内地用の漆器	二五二
第五款	支那漆輸入の影響	二五五
第四十六章	銅器并に青銅器	二五七
第四十七章	燐寸	二六〇
第四十八章	花 蕙	二六三
第四十九章	麥桿眞田	二六七

第五十章	印刷紙……………	二六九
第五十一章	印刷術の進歩……………	二七四
第五十二章	造船并に機械製造業……………	二八一
第五十三章	西洋式の建築……………	二八四

工藝鏡卷一

目次

刀
劍
工

天國

安綱 眞守

友成

三條宗近

正恒

高平 助平 包平

國友 久國

一文 字則宗

目次

目次

類原吉光

光忠長光

來國行

來國次

岡崎正宗

鄉義弘

左衛門三郎

志津兼氏

備前兼光

村正

關兼定 關兼元

埋忠明壽

國廣忠吉